

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成28年度実施状況について

事業名称等	提供区域	意見等
	1～3号	
幼児期の教育及び乳幼児期の保育の提供	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・確保が増加していることに伴い、必要となる幼稚園教諭、保育士の数も増えてきている。全国的に採用難であり、定員に余裕があっても受け入れられないという例が出てきている。幼稚園教諭、保育士への復職や離職を防止するための施策もあわせて必要になってくると思います。 ・とりわけ保育利用の希望にこたえる確保の計画について、年間での視点を加えていただきたい。
幼児期の教育及び乳幼児期の保育の提供	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ計画と実績値が合っていて、問題はないと思われる。
	1号	
幼児期の教育及び乳幼児期の保育の提供	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ計画と実績値が合っていて、問題はないと思われる。
	2号	
利用者支援事業		<ul style="list-style-type: none"> ・新制度へ移行した園の保護者からは、違いを十分に理解しないまま子どもを預けている人もいるように思います。今後、そういった現在すでに利用している人のサポートも含め、これから利用しようとする人の相談や情報提供の場を増やしてほしいと思います。
延長保育事業	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値が高いということは、ニーズが高く、利用者数が予想よりも上回っていると捉えることができる。したがって、数値の高い地域については、受け皿の確保のための方策が今後さらに求められる。また、利用者の人数や時間帯も流動的なことから、柔軟で余裕のある運用ができるとよりよいと思われる。
一時預かり事業	全体	<ul style="list-style-type: none"> どの地域も計画よりも量の確保をしたにも関わらず、実績値が高い。より一層の確保が必要である。
幼保連携型認定こども園の目標設置数及び設置時期		<ul style="list-style-type: none"> ・評価点については、意向調査の結果を受けた計画値が高かったためであるので、大きな問題はないと思われます。複数の保育施設の区分が年々目まぐるしく変わるため、単に認定こども園の設置を進めるための事業所への働きかけだけでなく、利用者に分かりやすく区分や特徴・違いを説明したり、各園がどの区分になっているのかを周知させるための取り組みも進めると良いと思います。そうすれば、利用者も多様な保育サービスの中から求める保育サービスが選びやすくなり、よいと思います。

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成28年度実施状況について

事業名称等	意見等
児童クラブ運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援新制度に対応した環境基盤整備・開閉所時間等ニーズに対応すべく取り組み、その進捗状況への評価は高い。しかし、一番大切な子育て・人間づくりの面からの支援員、また支援員を指名する運営委員会のあるべき姿勢に対して危惧を持っている。一部ではあるが、その具体的な訴えがある現状から見過ごすことが難しい。要は、支援員の資質に関することであり、長年の支援員の居座りによって問題点を外に出すことが難しくなっている。 ・受け皿が増えることは大変良いと思いますが、一方で、支援員の資質向上、また労働条件の整備は必須だと思います。支援員が研修に出やすいように、研修は労働時間と位置付けて給与の対象にすることは必須。また、働く方々が女性やシニアが多いと思うので、働き始めた当初は扶養の範囲、ボランティア意識もありますが、子どもとのかわりは重労働のため、対価に悩む方も出てきています。(相談をうけたことがあります) 子どもの預かり＝ボランティア、安価な労働、ではなく、この児童クラブで長年働きキャリアアップできるような仕組みがないと、支援員のモチベーションもダウンし、子どもの成長にも影響が出てくると思います。 ・量の確保がなされている点は評価できると思います。一方、全国的に虐待や発達障がいがある子どもへの対応が児童クラブ(学童保育)が課題となっています。職員の資質向上に加え、児童相談所等の関係機関との連携など総合的な対策が必要です。そのためには、職員への実態調査が必要だと思います。その上で、市としての体制作りにも早急に対処する必要があると思います。
子育て短期支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「まつこ」は持っている、とても便利で行動につながりやすいのだけれど、意外と宝の持ち腐れの的なもので、「あれ、いいですね」という声は聞けけれど、実践につながりにくい何かがある。きっと、くちコミュニケーションによる他の方法が、手っ取り早いのではないかと思われる。せつかくの小栗寮についても周知が薄いようだ。関連組織の見学会等も計画してはどうだろうか。 ・計画を下回っているのは認知度が低いことが原因でしょうか。本当に必要としている層にサービスを提供するためには広報では不十分です。貧困や虐待などに関係する層は、自らサービスを求めることはまれです。他課(保健所や教育委員会、子育て支援センター等)や医療機関、警察等関係機関のネットワークを構築し、積極的に介入するしくみを作る必要があると思います。
乳児家庭全戸訪問事業	<ul style="list-style-type: none"> ・年度を重ねて定着してきているように思える。保健師・推進員の地道な活動が基盤に思える。 ・数値目標を達成していることは評価できますが、質はどうでしょうか。講座を開催したとのことですが、その成果はどうなのでしょう。また、支援が必要と思われる母子を把握した場合の、継続支援の成果と課題はなんでしょうか。 産後うつは虐待のリスク要因です。また、育てにくい赤ちゃんは産後うつや虐待のリスク要因です。近年、発達障がい等の育てにくい子どもは0歳代からその特性が表れている場合も多く、子育ての困難の要因となっています。以上に指摘した問題に対し、市としてどのような体制を構築するかが課題だと思います。
養育支援訪問事業その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業	<ul style="list-style-type: none"> ・評価と今後の見込みに書かれているように訪問数では判断できません。虐待については全国的に理解が進んでいないのが現状です。子どもの命に関わるようなものだけでなく、しつけと称しておしりを叩くなども子どもの脳の発達に深刻な影響が出るということが研究から明らかになっています。夫婦間のDV等も心理的な虐待ですが、周知されていません。また、性的虐待が0件というのは把握できていない可能性が高いと思います。テレビやラジオで周知するのであれば、虐待の具体例を挙げて、保護者としてどのようにすればよいのかどんな支援を受けられるのかを知らせる必要があります。「虐待はやめましょう」のような単なるかけ声では成果は期待できません。虐待を行っている保護者は、支援が必要な保護者です。保護者の精神疾患や貧困等の問題に対し総合的に対策する必要があります。他科や医療機関、警察、児相相談所等関係機関とのネットワーク構築が必要です。そして、積極的な介入・支援が必要です。
地域子育て支援拠点事業	<ul style="list-style-type: none"> ・センター型の利用が減ったことの分析がなされていません。サービスの量を増やすだけでは不十分です。必要とされるサービス(質的側面)の把握が必要です。
ファミリー・サポート・センター事業	<ul style="list-style-type: none"> ・会議でも申し上げたのですが、せつかくの助け合いの仕組みですので、使っていただければ意味がないと思っています。告知についても、ただ大々的にホームページや広報に「仕組みが存在する」ことを告知するのではなく、「使い方や利用されている方の声」を大々的にアナウンスする必要があると思います。告知先も、働く方々が目に留めやすいもの(勤務先からのアナウンスやハローワーク等)にももっと投げかけが必要であると思います。 ・講習会方式は一定の知識の獲得には有効ですが、提供会員の悩みやニーズに応えることは困難です。一方的な指導ではなく、提供会員の相談に乗れる体制を整備する必要があります。
妊婦一般健康診査事業	<ul style="list-style-type: none"> ・受診率が96.1%を達成している点は評価できると思いますが、全国平均から見てどうでしょうか。適切に評価するためにも必要な情報だと思います。なお、受診率の高さは目的ではありません。受診することによって疾病・障がい等の早期発見や受診、安心・安全な妊娠・分娩につながったかどうか重要です。この点からの評価が必要だと思います。

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成28年度実施状況について

自由記載欄((第4章部分に関する事項を含む))

意見等

・平成27年度の新制度以降の保育の受け皿づくりに関して、松山市の取り組みは十分評価できるものと思っています。特に、私の関係している地域保育所が、松山市のサポートのもとでこの制度を活用し、小規模保育事業、事業所内保育事業、認定こども園、認可保育所など多様な施設に移行し、本市の子育て支援政策の一助となれたことは、双方にとってたいへんよろこばしいことであったと思います。ただ、急速な保育事業の拡大と多様な事業者の参入によって、保育の質の担保という点では懸念材料も多くなり、この数年の保育園での事故や事件の増加について憂慮するところです。国も地方自治体もこのことについて危機感を持って対応されていることを感じていますが、教員や公務員などの不祥事が相次いでいるように、その根底には社会全体の責任感や職業マインドの低下があると思います。保育の質の担保は数字や文書だけでは捉えきれない部分も大きい上、将来を担う子どもの生命に直接関係する問題であることから、特に保育にかかわる人たちの職業意識や使命感、責任感などを高めることが必要だと思えます。その意味から、技術的研修ばかりではなく、保育士の人生観や価値感を育てるような研修を期待しています。

・待機児童解消へ向けて、小規模など色々な職種からの参入も多く、既存の保育園としては、経営に不安を感じる。多く受け入れたいと思っても保育士の確保が困難で、特に、途中入所に、対応しきれないのが課題である。

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成28年度実施状況について

自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

意見等

・8事業とも量の見込みを設定し、実績値を出して、子ども・子育て支援に取り組まれている。その内容はとても素晴らしく、とても素晴らしいと思っています。ただ、その支援から取りこぼされているところに本当に大きな問題が発生しているように思えます。そこをひとつでも救うことができた時、その事業の意味が生きてくるものと考えております。小さな“助けて”を見つけて対応することの大切さを感じております。

・会議の中でも意見しましたが、計画値と実績値については国で決められているのであれば仕方がないと思いますが、事業内容によっては適確な進捗管理につながらないものもあります。情報周知に努めることはもちろんですが、計画値や実績値については本市独自の視点を設けて多様な領域で進捗管理を行っていくことが必要であると思います。数値化できるものは数値化できたほうが評価はしやすいですが、サービス利用者の満足度であったりとかも評価の視点に組み入れるシステムがあればと思います。

・どれも子育て支援のよい事業なので、発達段階にあわせて必要とされるであろう事業を整理して1枚物にまとめ、病院や保健所、託児所・保育所・こども園・幼稚園、小学校、中学校などを活用して毎年配布するなど、方法を工夫してさらに周知に努めるとよいと思う。

・一部、数値目標を達成していないところはあるものの数値としては成果が概ね上がっていると思います。しかし、質的側面から見ると評価に必要な情報がないのが現状だと思います。松山市が子育てしやすい街作りを目指すなら、質的側面の目標設定・評価が必要です。そのためにも保護者(市民)にニーズを聞き取ること、関係機関を交えた子育て支援ネットワークの構築、一方的で一般的な広報ではなく真に市民に役立つ啓蒙・啓発が必要です。数量にかけた予算・施策が実効性のあるものにするために、市民(保護者)の声をしっかりと聴き評価を受けて、質の向上を図っていただくことを期待しています。